



日本樹木種子研究所 (Japan Wood Seed Research Institute)

<http://www.wood-seed.jp>



日本樹木種子研究所

所長 江刺洋司 (東北大学名誉教授)

〒329-1411 栃木県さくら市鷺宿 4505-1

TEL 028-686-2557 : E-mail jwsri@wood-seed.jp

研究員 秋元利之

akimoto@wood-seed.jp

1. 日本樹木種子研究所とは

日本樹木種子研究所は、高品質の国産自生種木本種子を供給するために1996年に東興建設株式会社と日本合同肥料株式会社(当時)と共同で千葉県市原市に設立されました。設立当初、市場で出回っている木本種子の品質は極めて不良なものが多く、また中長期貯蔵が困難なものが多いため品質が不安定で、緑化工事で使用する植物材料としては非常に心もとない状況でした。しかしその後、本研究所と種子貯蔵施設(RSセンター)の開設により、自然回復緑化用の高品質種子の安定的な供給が可能となり現在に至っています。2004年には栃木県さくら市に移転し、木本種子全般を研究対象として更なる発展を目指しています。

2. 種子に関する技術を開発し緑化工をサポート

当研究所はその名のとおりに木本種子に関する技術開発を専門に行っています。設立から間もないころ、試験用に入手した種子の品質は悪く、カビとの戦いの日々でした。当時は木本種子の品質は悪くて当然という風潮も一部ではあったようです。そこで種子採種圃場をつくり種子の採種調整技術の研究や種子貯蔵法の研究開発等に着手しました。それから早10年、多くの樹種で高品質種子の安定的な供給が可能となっています。

これまでの研究開発で研究の基礎となっているのは早期発芽力検定法(NETIS No. KT-060003)です。木本種子の多くは多様な休眠性を持つので発芽に至るまで長期間必要とします。このため、通常の発芽試験を適用しても、正確な発芽

率を検定することはできませんでした。早期発芽力検定法は、従来から広く播種工の設計に用いられている発芽率と関係が高く、かつ1週間内外という短期間で調査できる種子活力検査法です。種子活力をリアルタイムに検定することが可能なため、さまざまな研究開発に用いています。なかでも種子の貯蔵技術の開発は飛躍的に進み、多くの樹種で長期的な種子の貯蔵が可能となりました。また、研究だけでなく、生物多様性と外来生物法に配慮した斜面樹林化工法(播種工による自然回復緑化工法)で使用する種子(レミディーシーズ)の品質管理に採用して高品質な種子の供給を行うとともに、種子品質の検定業務の受託も行っています。

現在、早期発芽力検定法は200種以上の木本種子に適用可能ですが、さらに多くの樹種に対応するべく、新たな種子の採取に奔走しています。

3. 森の世紀

地球温暖化の大きな原因となっている大気中の二酸化炭素濃度を減らすには樹木による吸収固定しかありません。また、異常気象等により増えている斜面の土砂災害を防ぐためにも種子から樹木を育てることにより、地下に丈夫な根系ネットワークが構築され、防災的に優れた森林をつくることができます。将来の地球のために、我々も貢献していきたいと考えています。最後に、当研究所の江刺所長から子供たちへのメッセージ「森の世紀」がNPO PLANT A TREE PLANT LOVEのホームページにて連載中ですのでぜひご覧ください。(<http://www.plantatree.gr.jp/handinhand/message/index.html>)



写真-1 RSセンターの種子貯蔵施設



写真-2 RSセンターの種子計量袋詰め装置